# 沖縄 11.23 県民平和大集会への連帯メッセージ

今、連日のようにガザの惨状が報道されています。ガザのパレスチナの人々の犠牲は僅か１か月で１万人を超えました。その６割は子どもたちです。１５分に１人の子どもが死んでいきます。昨年２月に始まったロシアによるウクライナ侵攻は、私たち「普通の生活を送っている」人間にも戦争が身近に起こるかもしれないという衝撃を与えました。そして現在のガザの惨状は、戦争というものの残酷さや悲惨さを認識せよと「これでもか、これでもか」というほど私たちに迫っています。

九州から馬毛島、奄美、沖縄、宮古、石垣、与那国の南西諸島は、自衛隊のミサイル基地や電子戦部隊の配備、米軍の再編強化、そして米軍と自衛隊との合同演習の深化などで不沈空母化されています。昨年末に閣議決定された安保３文書に基づく敵基地攻撃能力をもつ長射程ミサイルの配備も予想されています。台湾も中国も望んでいない「台湾有事」が煽られ、偶発的に軍事的衝突が起こる危険が高まっています。戦争が起これば真っ先に戦場になるのは南西諸島です。沖縄が再び戦場になるのです。イスラエルによる虐殺が止まないガザは壁に囲まれ人々は逃げる術がありません。周りを海に囲まれた沖縄の島々も同じです。沖縄を始めとする南西諸島がガザのようになるのです。

イスラエルのネタニヤフ首相は、再三再四、一般市民は殺されたくなければ南に避難せよと迫っています。与那国や石垣では、国民保護の名の下に、住民を島の外に移動させるという現実離れした計画を立てています。しかし、避難したからといって生存し続けられる術は用意されていません。それなのにどうして自分の住んでいる場所からの立ち退きを強いられなければならないのでしょうか。戦争は一般住民が邪魔なのです。今政府は、戦闘で負傷する自衛隊員の移送や救護の訓練まで始めています。その救護対象には住民は含まれていません。「軍隊は住民を守らない」という沖縄戦の教訓が再現されます。

ことは沖縄だけではありません。各務原基地周辺が土地利用規制法の特別注視区域に指定されます。軍事的に特に重要な施設であることを公言しているのです。岐阜県は川崎重工を始めとする防衛産業も集中しています。ここ岐阜でも、攻撃対象となり戦場となる危険性が現実化しようとしているのです。

ウクライナでも、ガザでも、一旦戦争が始まると終わりは見えません。ですから戦争はどんなことがあっても起こしてはいけません。「対話による信頼こそ平和への道」なのです。きょう、沖縄では「沖縄を再び戦場にさせない」ために平和大集会が開催されます。その想いは私たち岐阜に住むものも同じです。絶対に戦争はさせないという強い想いをつなげて共に行動していきましょう。

戦争させない･9条壊すな！　岐阜総がかり行動実行委員会

2023.11.23